



世界で戦える会社を目指して

IHIが日産自動車から事業を譲り受けして発足した弊社は早くも16年経過し、弊社入社の新入社員はすでに3割を超えました。両社の異文化の融合も進み、弊社独自の企業文化が育ってきました。弊社の事業基盤はペンシルロケットから始めた固体ロケットであり、本年11月には弊社の主力製品であるH-IIA用SRB-Aの100本目の出荷式を行なうことが出来ました。SRB-Aは現在弊社の事業基盤であり、宇宙基本計画に示される打上げ計画により、事業の予見性も高まっています。また輸出事業として注力してきた衛星用推進系は、米国への輸出に加え、近年欧州、アジア圏にも市場を拡大しています。さらに有人宇宙ステーション「きぼう」では、各種宇宙実験装置の開発に参画するとともに、小型衛星放出機構等を用いた東南アジア各国のキャパビリティ支援にも積極的に参画しています。またイプシロンロケットは試験機打上げから3年以上経過しましたが、現在2号機が科学観測衛星(ERG)を搭載して、鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所で打上げ前の最終点検を実施しています。そして将来の事業の核とすべくH3ロケットの開発にも参画しています。

しかし残念ながら国家予算への依存度が高いため、国内市場の成長を担い、海外市場への参入を果たすことが課題となっています。

国内市場の活性化に向けて、先月宇宙関連2法案が成立しました。これにより日本でも宇宙利用の促進と、新規プレーヤの参入が期待されます。弊社としても日本国内の既得権

を固持するのではなく、新しい枠組みにおけるプレーヤとしてパラダイムシフトを図って行くと同時に、新しい発想を持ったプレーヤと切磋琢磨し、或いは協力して、国益の確保と日本市場の成長シナリオが両立するための一翼を担っていく所存であります。

一方で海外市場においては、米国のある会社はシリコンバレーをベンチマークとし、イノベティブでスピード感のある会社を目指すとともに、インターナショナルからグローバルな会社に変革しようとしており、彼らの求めるパートナーのイメージは明確です。経産省主催のフランスでの宇宙貿易会議では、競争より協力による市場の活性化を目指すフランス側姿勢が明確に示され、多彩な国際協力の提案がありました。経済成長力の旺盛な東南アジア諸国では、宇宙開発は単なる経済効果だけではなく、国威発揚の場として多彩な需要があるようです。英国のEU離脱、ランプ次期大統領のような反グローバルの流れがあるものの、宇宙分野では今後ともグローバル化は進むと考えています。

宇宙基本計画に示された10年間5兆円の国内市場の育成に官民協力して取り組み、国益の確保と技術力、製品力、産業基盤の維持・向上を図り、日本の産業界の体力を強化して、世界で戦える会社を目指していく所存であります。

関係諸官庁、業界の皆様のご指導、ご支援を切に願う次第であります。